

国際戦略 骨子

【2040年に目指すべき北海道大学の姿】

- I. 多様な国・地域・組織の人々と連携・協働して世界の課題解決に貢献し、豊かな未来社会をつくる原動力となっていること
- II. 本学の設置の経緯や独自の発展の歴史、地誌的特性に基づく多様な分野でのグローバルな教育・研究を通じて、独自性や優位性をもってサステナビリティの実現に貢献し、比類なき大学として世界的に認知されていること
- III. 多様な学生・研究者・教職員が活躍する公平かつ包摂的なキャンパスの国際化を実現していること

HUCI構想の成果を活かし「量的拡大」から
教育・研究の「質重視」への転換



教育デジタル化を
見据えた国際戦略の推進

柱となる4つの戦略目標

1. 頭脳循環する大学

知の好循環による人材育成の
推進と研究力の向上

- 優秀な留学生の正規課程への受入れを促進する学位プログラム等の整備
- 博士等の学位を取得した修了生が大学等に職を得て後進を育成し、次世代の学生が本学に留学する知の好循環の推進
- 留学生の日本定着化を目指し、日本語教育を拡充するとともに就職・キャリア支援を促進
- 海外学位・資格の適正な審査・評価の推進、安全保障貿易管理の徹底
- 外国人研究者・留学生の生活支援等、受入れ支援体制整備
- 外国人研究者・留学生の宿舎充実
- 多様な学生・研究者の交流機会・空間の拡充

2. 流動し課題解決に 貢献する学生・教員

魅力的な国際協働共修
環境の推進

- 効果的・体系的な留学プログラムの構築
- オンラインによる教育プログラムを積極的に創出し、渡航せずとも学生が国際共修機会を持てる環境を整備するとともに効果的なハイブリッド型の留学プログラムを構築
- 授業や研究室の国際共修機会を拡充し、異文化理解力・コミュニケーション力等を強化
- 戦略的に重要な協定校との質保証を伴った連携・交流・枠組み作りの推進
- 海外派遣時における危機管理体制の強化
- 教員の国際経験の機会創出

3. サステナビリティの 追求

サステナビリティ関連
分野での実践的な貢献

- 強みを持つ分野の基礎研究力の向上
- 自然豊かなキャンパスを活用した実学研究・応用研究の推進
- 国際的先端協働研究拠点等の活用、異分野融合的な共同研究や産学連携の推進
- サステナビリティ関連分野の体系的なカリキュラム開発
- フィールド資源・研究施設を活用した国際協働教育の推進
- 国際機関・政府機関・自治体・企業等との連携強化
- サステナビリティ関連教育・研究分野の取組を効果的に発信し、国際プレゼンスを向上

4. 進化する マネジメント

国際対応力を推進する
ための環境・体制整備

- 重点地域・国別戦略に基づく国際展開
- 協定校との戦略的な連携推進
- 国際交流状況の分析機能の強化と効果的な活用
- 学内各部署の国際活動に関する連携強化
- 国際業務を専門的に対応できる職員の拡充及びその効果的な配置
- 海外オフィスの戦略的な活用
- 戦略的な国際広報活動の推進

中期目標・中期計画等に適宜反映